

助産学専攻科

教育目的

新しい生命の誕生への支援を核とし、あらゆるライフサイクルにある女性の機能が十分に発揮できるように、高度な専門的知識・技術と共に人間愛や生命への慈しみを持ち、他職種と連携・協働して対象者に喜びや安心感をもたらす支援ができる実践能力を有する人材を育成する。そして、専門職として自律した活動ができる助産師を育成することを目的とする。

教育目標

1. 助産実践に必要な判断力と実践力を育成する。
2. 医療の高度化や多様化する価値観、ニーズの変化に対応できる判断力を育成する。
3. ケアの質向上が図れるために、助産実践を科学的に検証し、追求することができる。
4. 女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、多職者と連携・協働できる能力を育成する。
5. 女性の生涯にわたる健康づくりを支援し、地域の母子保健の発展に貢献できる人材を育成する。
6. 専門職者としての助産師の役割や責務を認識して活動ができる人材を育成する。
7. 生命の誕生にかかわる体験をとおして、いのちの重みや尊さを実感し、助産師としての自己を高めていくことができる人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー

「助産学専攻科」においては、高度な専門性、思考力、真摯な態度と向上心、自律心と国際性、を持った助産の専門職の養成をめざすという基本理念の下、以下の基準を満たした学生に修了証書を授与する。

1. 高度な専門性

- ・ 助産実践に必要なエビデンスに基づいた判断力と実践力を身に付けている。
- ・ 女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、多職者と連携・協働できるコミュニケーション能力を習得している。

2. 思考力

- ・ ケアの質向上が図れるために、助産実践を科学的に検証、追求し、論理的に考察できる科学的探究方法を理解している。
- ・ 医療の高度化、多様化する価値観やニーズを理解・尊重し、その対応について考察できる。

3. 真摯な態度と向上心

- ・生命の誕生にかかわる者として、いのちの重みや尊さを実感し、助産師としての自己を高める方法を身に付けている。
- ・慈悲の心を身に付けている。

4. 自律心と国際性

- ・女性の生涯にわたる健康づくりを支援し、地域の母子保健の発展に貢献できる。
- ・国内外で求められる助産師の役割や責務を認識し、助産や社会の発展に貢献することができる。

カリキュラム・ポリシー

カリキュラム全体を通し、専門職としてふさわしい助産実践力を有し、使命感・倫理観を自覚した助産師を育成するために、本学科の教育目的・目標及びディプロマ・ポリシーの達成のため、以下の考えに基づきカリキュラムを編成、実施する。

カリキュラム編成の考え方

カリキュラムは「基礎助産学」を礎に、「助産診断・技術学」「国際・地域母子保健」「助産管理」「助産学実習」「助産学探究」の6つ分けて編成した

1. 基礎助産学

女性の性と生殖に焦点を当てて、医学的、産科学的知識と生命・人権に対する倫理観を身に付け、助産の基礎について学ぶ。また、妊娠・出産・育児だけでなく、女性の生涯を通じて、性と生殖に関する健康課題について、相談、教育、援助活動ができる能力を養う。

さらに、仏教精神に基づき、単に知識、技能を習得させるのではなく、専門職として学生が自ら真実の人間としての生き方を求め、自己を問い、自己を確立できる態度を養う。

2. 助産診断・技術学

看護基礎過程で履修した科学的問題解決技法を用いて、助産の視点より妊産褥婦及び胎児・新生児の健康に関する情報を収集して診断し、助産過程の展開ができる能力を養う。また妊婦の主体性を尊重した出産を支援する能力を養うと共に、急変時の母児の対応についても学ぶ。

3. 国際・地域母子保健

核家族化や女性の社会進出が進む中、安心して子どもを産み育てるために、地域で子育て支援サービスや母子保健サービスなどの社会資源の活用や調整を行える能力を養う。そのために関係職種・関係機関との連携・調整、多職者と連携・協働の重要性について学ぶ。さらに国際化を視野に、途上国における母子保健の現状と国際協力についても学ぶ。

4. 助産管理

産科病棟や助産所の運営・管理を安全に行うための基本を学ぶ。さらに周産期における

医療安全の確保（緊急搬送体制）と医療事故への対応についても学ぶ。

5. 臨地実習（助産実習・地域実習）

妊娠期から産褥・新生児期までの診断・判断力を高め、妊娠・出産・産褥・新生児期が自然で安全に経過できるよう、自然機能を助長・支援ができる専門的技術を養う。

また、多角的な実習施設での臨地実習を行い、実践的な思考能力を養う。

6. 助産学探究

ケア向上のための探究心と、研究過程を通して、科学的な思考や論理的表現方法を養う。

これらのカリキュラムを通して、次代に求められる助産実践力のある助産師を育成することとした。

アドミッション・ポリシー

次代に求められる助産実践力のある助産師を育成するために、入学後の教育に十分対応できる資質として、次のような能力を備えた学生を求める。

1. 助産学発展の一翼を担う自覚を持ち、主体的、自律的に学問的探究に努力する。
2. 援助の対象者を思いやり尊厳ある個人として、全人的に理解できる。
3. さまざまな現象を、科学的根拠に基づき論理的に考えることができる。
4. グローバルな視点を持ち、文化・宗教、人種、政治を超えた実践ができる。
5. 生命の誕生を支援する助産師の仕事に喜びややりがいを感じることができる。

入学者の選抜方法

このような学生を適正に選抜するために、一般入試は、筆記試験（専門科目）ならびに小論文試験及び面接の成績により、総合的に判定して入学候補者を決定する。